

能登半島地震から得た教訓

令和6年能登半島地震における総括支援チーム勤務雑感

能登町職員
支援自治体の皆様
毎日の頑張り
ありがとう

令和6年4月16日（火）
滋賀県知事公室防災危機管理局
危機管理室参事
伊藤 忠

◆ 説明項目

➤ 能登町での勤務

➤ 支援業務全般 ①～④

➤ 勤務環境

➤ 総括所見



◆ 能登町での勤務

○ 総括支援チームとして勤務 ※応急対策職員派遣制度（総務省）による。

「総括支援チーム」

- ① **役割** 被災市区町村の長の指揮の下で、被災市区町村が行う災害マネジメントを総括的に支援
被災市区町村の長への助言、幹部職員との調整、被災市区町村の被害状況や応援職員のニーズ把握、被災都道府県をはじめとする関係機関及び総務省との連携など



災害対策本部会議への出席

総務省HP抜粋

- ## ○ 勤務期間
- # 1 令和6年1月10日（水）～19日（金） 10日間
 - # 2 令和6年1月26日（金）～2月4日（日） 10日間
 - # 3 令和6年3月5日（火）～16日（土） 12日間

（令和6年3月21日現在）

リエゾン室での勤務



輪島市総括支援チームとの意見交換



◆ 支援業務全般①

担当者未定・不在

状 況

- 非常時の業務のため、担当者が決まっていない。
- 複数掛け持ちで、現場に出ておりつかまらない。
- 関係する部署の課長等との直接調整。

考 察

- ✓ 各課長が様々な業務全てを背負う。結果的に業務は遅延。
- ✓ 非常時業務を想定し担当を明確化。
- ✓ さらに支援要員の誰もがわかるように表示。



◆ 支援業務全般②

業務はその都度調整

状 況

- 感覚的な指示、〇〇が大変そうだから・・・。
- 出たところ勝負。結果オーライ。
- 業務の節目を捉えたミーティング、個別調整が必要。

考 察

- ✓ 支援要員・組織の力量、熱量に左右。
- ✓ 支援要員に**依頼する業務をあらかじめ精査し準備。**
(ロードマップの骨子を準備)



◆ 支援業務全般③

多数の関係機関、団体等が災害対応（応援）に参画

状 況

- 想像以上、予想以上に多数の機関、団体がコミット。
- それぞれの力を結集できていたか懸念。

考 察

- ✓ どの機関に、何を期待するか。どのセクションが対応するか。
- ✓ 国、関係機関・団体等の役割を理解、期待事項を整理。



◆ 支援業務全般④

強力なプッシュ型支援

状 況

- 1月4日 食料（パン等）到着。
- 1月7日 物資が物資集積所（柳田体育館）に満載。

考 察

- ✓ 物資の供給速度は速い（加速度的）。
- ✓ 目詰まりを起こさないよう、**物資輸送等の枠組み整備は、当初から十分に配慮。**



◆ 勤務環境

受入環境の混乱

状 況

- リエゾン勤務場所で町の災害対策会議を開催。
- 議会議場はミーティング会場、議会会議室はリエゾン仮眠所。
- 到着した団体、機関は、廊下等の空きスペースを見つけて活動。

考 察

- ✓ 受入を前提とした災害勤務態勢をあらかじめ準備。

リエゾン勤務場所



議会議場



議会会議室



◆ 総括所見

被災状況のなか、職員全ての勤務は極めて困難と予測



現 実

他の団体、機関等の支援を得て、災害対応

※ 支援要員、組織は、支援にあたり **自己完結できる態勢で臨む着意**が必要（お互いに歩み寄り準備）

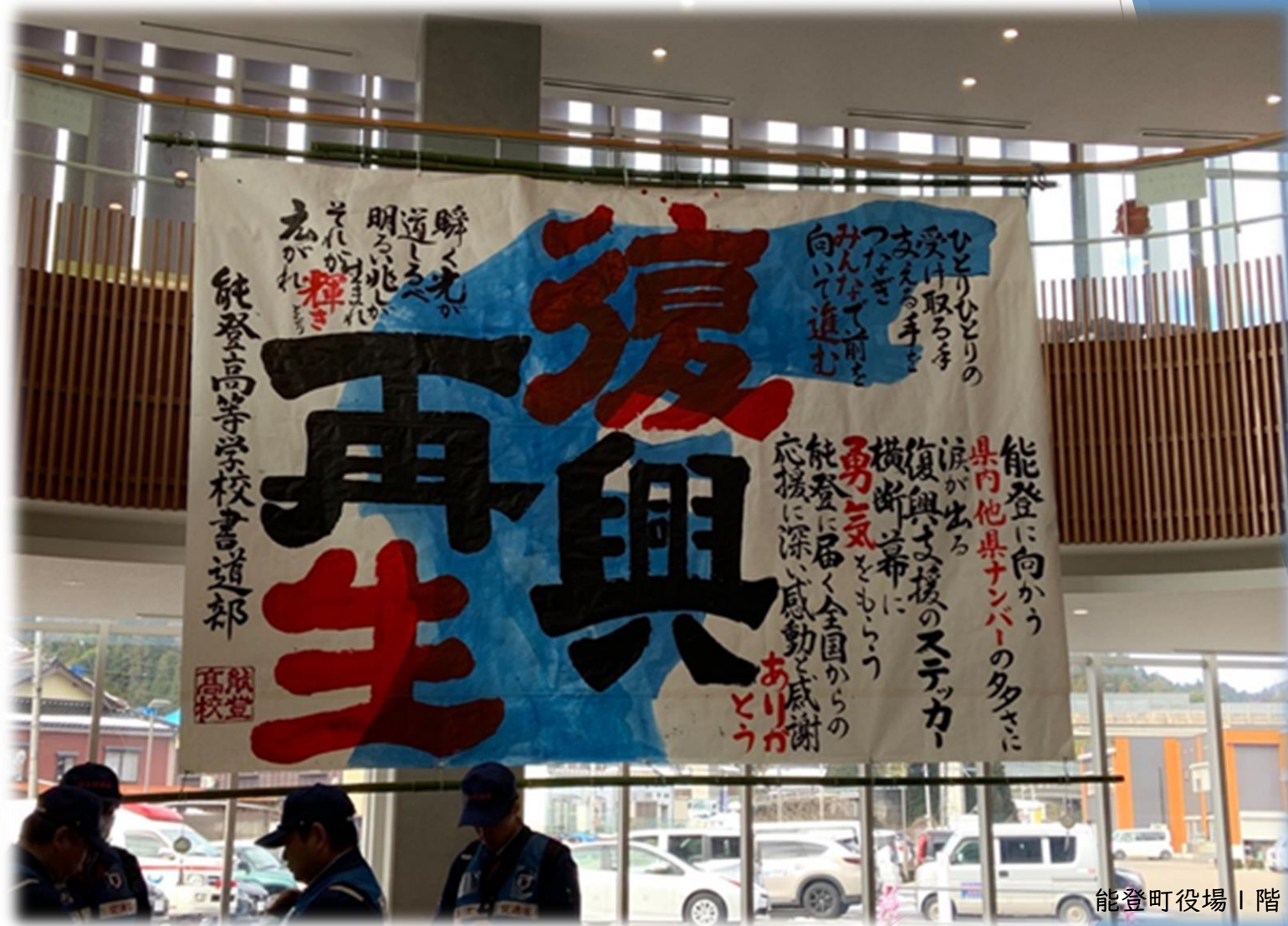
防災危機管理局の災害対応状況
(県危機管理センター3階)



支援要員の物資集積所
(県危機管理センター3階)



◆ 最後に



復興を祈念、教訓を活かす！